

# 第66期 中間株主通信

2023年2月1日～2023年7月31日



株主の皆様におかれましては、日ごろより格別のご厚情を賜り、厚く御礼申し上げます。

代表取締役社長 小林 統

## ■上半期を振り返って

当第2四半期連結累計期間(2023年2月1日～2023年7月31日)における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症の規制緩和等により、持ち直しの動きがみられたものの、世界的な金融引締め等が続く中、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクもあり、依然として先行きは不透明な状況が続いております。

当ディスプレイ業界の事業環境につきましても、個人消費、企業の販促投資に持ち直しの動きがみられたこと等により、需要回復の兆しがみえてきました。しかしながら、エネルギー、原材料価格の高騰等、コスト上昇リスクについても、引き続き注視していく必要があります。

このような状況のもと当社グループは、中期経営計画(2022年1月期～2024年1月期)に基づき、早期の業績回復の実現と更なる企業価値の向上を目標に事業活動を展開してまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は388億71百万円(前年同四半期比23.0%増)となり、営業利益は13億57百万円(前年同四半期比109.7%増)、経常利益は14億2百万円(前年同四半期比95.0%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は9億26百万円(前年同四半期比101.5%増)となりました。

また、当第2四半期連結累計期間の受注高は402億25百万円(前年同四半期比27.7%増)となりました。

## ■通期の見通し

今後の見通しにつきましては、雇用や所得環境が改善する中で、各種政策の効果もあり、引き続き緩やかな景気回復が期待されます。

当社グループを取り巻く環境につきましても、個人消費、企業の設備投資が持ち直していることもあり、国内景気の回復とともに需要の回復が見込まれます。

なお、2024年1月期通期の連結業績予想につきましては、概ね堅調に推移しているため、前回の予想から変更はありません。

(百万円)					
売上高	営業利益	連結 営業利益率 (%)	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	連結ROE (%)
2022年1月期 実績					
62,714	2,024	3.2	2,209	1,434	4.9
2023年1月期 実績					
64,221	616	1.0	793	495	1.6
2024年1月期 計画					
76,000	3,000	3.9	3,160	2,090	7.0

## ■配当金について

当期の中間配当金は、1株当たり15円とさせていただきます。また、期末配当金は、1株当たり15円を予定しており、年間配当金は、1株当たり30円となる見込みです。株主の皆様におかれましては、今後とも、より一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2023年10月

## 商業その他施設事業

連結売上高 **227億34**百万円 (前年同四半期比 38.5%増)

セグメント利益 **9億41**百万円 (前年同四半期は23百万円のセグメント損失)

商業その他施設事業においては、経済活動の制限が緩和されたことにより、前年同四半期に比べ需要は回復し、主にショッピングセンター・専門店ビル等の大型店や、アミューズメント施設、ホテル、駅ビル・空港関連施設等の新改装案件が増加したこと等から、売上高、セグメント利益ともに前年同四半期を上回りました。



ONE PIECE FITNESS BragMen

## チェーンストア事業

連結売上高 **109億92**百万円 (前年同四半期比 14.9%増)

セグメント利益 **4億67**百万円 (前年同四半期比 15.9%増)

チェーンストア事業においては、経済活動の制限が緩和されたことにより、前年同四半期に比べ需要は回復し、主に飲食店分野およびその他専門店分野の新改装案件が増加したこと等により、売上高、セグメント利益ともに前年同四半期を上回りました。



タリーズコーヒー ミソラタウン掛川店

## 文化施設事業

連結売上高 **49億50**百万円 (前年同四半期比 9.1%減)

セグメント損失 **1億14**百万円 (前年同四半期は2億27百万円のセグメント利益)

文化施設事業においては、収益性の高い案件が減少したこと等により、売上高、セグメント利益ともに前年同四半期を下回りました。



京都市中央市場 水産棟見学エリア

## その他

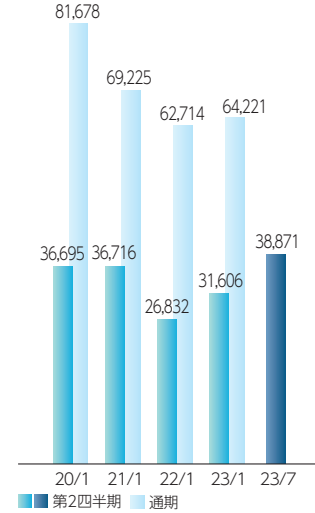
連結売上高 **1億93**百万円 (前年同四半期比 10.1%増)

セグメント利益 **58**百万円 (前年同四半期比 45.7%増)

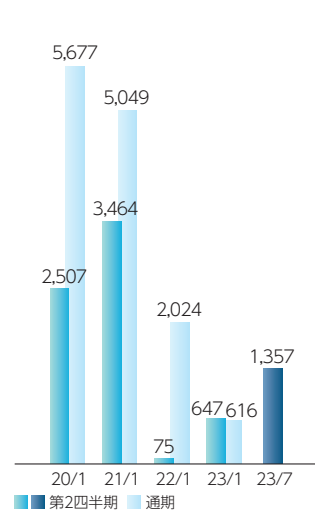
その他においては、経済活動の制限が緩和されたことにより、ディスプレイ業以外の事務サービス等についても前年同四半期に比べ需要は回復し、売上高、セグメント利益ともに前年同四半期を上回りました。

## 連結財務ハイライト

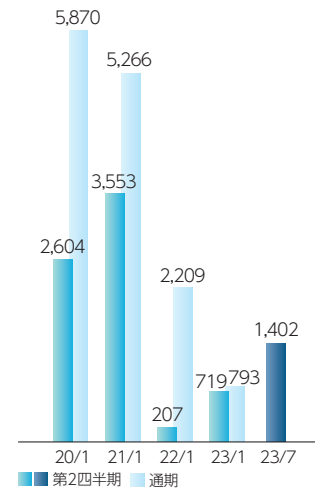
売上高 (単位:百万円)



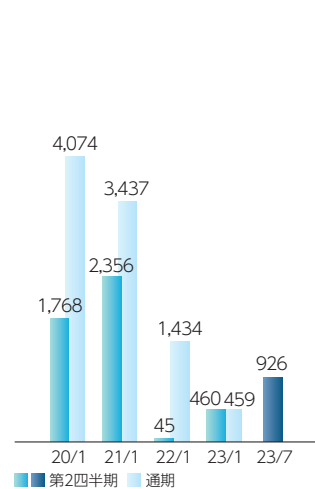
営業利益 (単位:百万円)



経常利益 (単位:百万円)



親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (単位:百万円)



## 連結財務諸表

### 連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	前期末	当第2四半期末
	2023年1月31日現在	2023年7月31日現在
流動資産	34,519	38,579
固定資産	7,338	7,791
流動負債	11,238	15,414
固定負債	1,204	859
純資産	29,414	30,098
総資産	41,858	46,371

### 連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	前第2四半期	当第2四半期
	自 2022年2月 1日 至 2022年7月31日	自 2023年2月 1日 至 2023年7月31日
売上高	31,606	38,871
売上原価	26,230	32,348
売上総利益	5,375	6,522
営業利益	647	1,357
経常利益	719	1,402
親会社株主に帰属する四半期純利益	460	926

### 連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	前第2四半期	当第2四半期
	自 2022年2月 1日 至 2022年7月31日	自 2023年2月 1日 至 2023年7月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	989	2,000
投資活動によるキャッシュ・フロー	△179	△173
財務活動によるキャッシュ・フロー	△634	△704
現金及び現金同等物の四半期末残高	16,524	16,883

詳細な財務情報は、当社ウェブサイトIR情報をご覧ください。

アドレスはこちら▼

<https://www.tanseisha.co.jp/ir/>

①【事業主】Team BragMen 有限責任事業組合  
【業務範囲】施設コンセプト企画: Team BragMen 有限責任事業組合、丹青社  
デザイン・設計・制作・施工、トレーニング器具デザイン: 丹青社、制作・施工: 丹青TDC  
②【事業主】タリーズコーヒー株式会社【業務範囲】デザイン・設計・制作・施工  
③【事業主】京都市【業務範囲】展示企画、デザイン・設計・制作・施工

# 先端技術を駆使したリアル脱出ゲーム「THE TOKYO MATRIX」



## 求められたのは全く新しい体験型アトラクション

2023年4月、東京・新宿に東急歌舞伎町タワーが開業しました。当社は、その4階フロア全体を占める「新宿ダンジョン攻略体験施設『THE TOKYO MATRIX』」の環境デザイン・設計、音響・映像システム設計、同施工を担当しました。同施設はプレイヤーが2~3人でチームを組み、協力してモンスターを倒し、アイテムを探し、トラップをクリアしてダンジョンの脱出を目指すミッション攻略型のアトラクションです。

クライアントである株式会社ソニー・ミュージックソリューションズ(以下、SMS)様からのご要望は、近未来の日本をイメージしたサイバーパンク的空間の中で、プレイヤーとオンラインの参加者がコミュニケーションをとり、プレーの様子をネットで発信するなど、これまでにない新しいエンターテインメントを作りたい、というものでした。



2020年10月のコンペまで2カ月という短い準備期間の中で、当社は、詳細なゲーム展開を想定し、具体的な展開図や各種図面、見積もり等を作成しました。例えば、エントランス部分には、歌舞伎町の入り口

に立つ赤いアーチをモチーフにした、鳥居を天地逆さまにしたデザインのモニュメントを考案し、求められる世界観を表現しました。コンペ当日、通常は企画や設計担当者のみが出席しますが、今回はシステム全体の統括者、ハード系・ソフト系のデザイナー、機材系担当者、制作担当者などチームの主要メンバーが参加し、プレゼンテーションの後には活発な質疑応答が繰り返されました。

その結果、SMS様のイメージに沿った完成度の高い提案内容と、当社のプロジェクトにかかる熱意が評価され、本件の受注に至りました。

## 厳しい制約の中でエンタメ性の高い空間を実現

その後、ゲーム内容が人気IP『ソードアート・オンライン』と連動することになり、当初提案した世界観も生かしつつプロジェクトは進められました。

ビルの躯体が完成し、当社は2022年7月より現場に入りましたが、当時はコロナ禍が収まっておらず、半導体不足や物流の混乱、資材価格の高騰などが起こり、施工現場での感染防止対策をはじめ、さまざまな調整が必要でした。これらの問題は発生するたび即座に関係者全員で情報を共有して解決を図りました。また、当社のメンバーを対象にWeb上で「ホームルーム」と称する打ち合わせを実施し、悩み・懸念・提案を共有することで、『TEAM丹青社』としての一体感が強まり、SMS様からの

信頼獲得にもつながりました。

設計・施工の面では、関係法令に準拠することに苦労しました。プレイヤーを迷わせるダンジョンという設定でありながら、非常時に避難経路が分かりやすいよう誘導灯や膨大な数の建具の配置に試行錯誤したほか、バリアフリーや省エネルギーにも配慮しました。また、建物に煙感知器が設置されスモークが使えないことや、ゲーム中にプレイヤーが壁を叩いたり身体がぶつかったりすることが想定され強度や安全性が求められることなど、多くの制限がある中で、音響や映像、照明等の演出テクニックを駆使し、非常にエンターテインメント性の高い空間を構築することができました。



## メンバーの熱意とチームワークでプロジェクトを完遂

本プロジェクトは、比較的短いスケジュールの中で、SMS様も含めたすべての関係者がコミュニケーションを密に取り、同じ目標と意識を共有することで、予定どおり完成することができました。

特にSMS様から高い評価をいただいたのが、エントランスのデザインでした。現実と近未来の世界の境界をイメージしたゲートや、凹凸感のある3D加工を施した鉄板で構成した壁面、音響や照明を効果的に組み合わせた演出など、これから挑戦する未知のアトラクションへの期待感を盛り上げ、若者や訪日観光客を中心としたプレイヤーからも好評を得ています。

本プロジェクトは通常の商業施設等とは異なり、大規模な映像・音響・システムの設計施工が複合したプロジェクトであり、これまでになかった発想や着眼点、課題への対処等の経験やノウハウを蓄積できました。これからも当社は、クライアントも含めたチームワークとプロジェクトにかかるメンバーの熱意を推進力として、新たなチャレンジを続けてまいります。

## プロジェクトに携わったメンバー



(手前から)	
デザイナー	金子 華絵
クリエイティブディレクター	小岩 幸江
制作	鈴木 広伸

古民家・古木®活用の山翠舎と古木®の空間活用促進に向けて業務提携契約を締結しました

古民家・古木®(こぼく®)の活用を事業の柱に掲げ、持続可能な社会づくりに取り組み株式会社山翠舎(代表取締役社長:山上浩明)と古木®の空間活用促進に向け業務提携契約を締結しました。

さまざまな空間に良質な古木®を取り入れるにあたり、高度な技術が必要とするデザインや施工においても古木®を積極的に導入できるようになるほか、NFT(Non-Fungible Token)のデジタル証明書を活用するなど、古木®をより幅広く活用するための検証を両社で行い、古木®の魅力を活かした空間づくりを求める事業者の期待に応えます。



2社で手がけたプロジェクト(2021年)「治一郎 エキュート東京店」(事業主:株式会社ヤタロー)

空間での古木®の利活用促進に向け、多様な分野において採用提案・導入を行い環境に配慮した空間づくりを推進することで、事業を通じたサステナビリティへの貢献活動を進めてまいります。

AIを活用して社内の情報と人を結ぶ「saguroot」の提供を開始しました

AIを活用した横断的な資料の検索を通じて、社内に眠っている“価値ある情報”の活用を促すナレッジマネジメントツール[saguroot(サグルート)]の提供を開始しました。

「saguroot」は組織・企業に向けて開発された、社内の知見と人材を見つけられるツールです。博物館等の展示施設を多く手掛ける当社の情報整理のノウハウを生かしたユーザー視点のUX設計により、直感的で効率的な検索を実現しています。資料検索を通じて社内に蓄積された有益な情報と、それらに紐づく知見をもった人材を可視化することで社内のコミュニケーションを誘発し、企業のイノベーションを支援します。

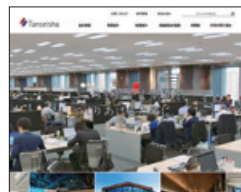


「saguroot」操作画面イメージ

当社は空間づくりにおいて積み重ねてきた知見を生かし、今後もイノベーションの推進と新たな価値創出に取り組んでまいります。

ウェブサイトのご案内

積極的に情報開示を行っております。また、最新の統合報告書は2023年9月に公開しておりますので、当社をよりご理解いただくためにも、ぜひご利用ください。



<https://www.tanseisha.co.jp>

会社概要 (2023年7月31日現在)

商号 株式会社丹青社  
 設立 1949年10月14日  
 資本金 40億2,675万657円  
 従業員数 1,063名(連結1,426名)

役員 (2023年7月31日現在)

代表取締役会長 高橋 貴志 取締役 常勤監査等委員 戸高 久幸  
 代表取締役社長 小林 統 社外取締役 監査等委員 新島由未子  
 取締役 森永 倫夫 社外取締役 監査等委員 吉井 清信  
 取締役 深谷 徹 社外取締役 監査等委員 楨原耕太郎  
 取締役 津久井哲雄  
 社外取締役 板谷 敏正

株式の状況 (2023年7月31日現在)

株式の総数  
 発行可能株式総数 187,200,000株  
 発行済株式総数 48,424,071株  
 株主数 14,120名  
 大株主

株主名	持株数	持株比率
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	6,153千株	12.81%
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	2,880	5.99
丹青社取引先持株会	2,391	4.98
第一生命保険株式会社	1,907	3.97
丹青社従業員持株会	1,521	3.16
株式会社三井住友銀行	1,500	3.12
株式会社三菱UFJ銀行	1,482	3.08
日本生命保険相互会社	1,446	3.01
野村信託銀行株式会社(投信口)	1,411	2.94
GOVERNMENT OF NORWAY	922	1.92

※ 持株比率は、自己株式(317,931株)を除いて算出しております。

株主メモ

事業年度 2月1日から翌年1月31日まで  
 配当金受領株主確定日 期末配当1月31日/中間配当7月31日  
 定時株主総会 毎年4月  
 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号  
 特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社  
 同連絡先 東京都府中市日鋼町1-1  
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
 Tel.0120-232-711(通話料無料)  
 同郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号  
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
 上場金融商品取引所 東京証券取引所 プライム市場  
 公告の方法 電子公告により行う  
 公告掲載URL <https://www.tanseisha.co.jp/>  
 (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。)

株主の皆様の声をお聞かせください

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

<https://www.e-kabunushi.com>  
 アクセスコード 9743

いいかぶ 検索

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2か月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(QUOカードPay500円)を進呈させていただきます

※本アンケートは、株式会社リンクコーポレートコミュニケーションズの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。  
 ※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」  
 MAIL: [info@e-kabunushi.com](mailto:info@e-kabunushi.com)

撮影:御園生大地(©尾田栄一郎/集英社)、ヴィスタジャパン 廣崎節雄、マツキヒロシ

ここを動かす空間をつくりあげるために。

株式会社丹青社

〒108-8220 東京都港区港南一丁目2番70号  
 Tel. 03(6455)8100(代表)  
 Fax. 03(6455)8220(代表)

